

### 534 放射性ヨード標識 IMP を用いる腫瘍イメージングの基礎的及び臨床的検討

渡辺直人, 横山邦彦, 川畑鈴佳, 秀毛範至  
向加津子, 隅屋 寿, 関 宏恭, 松田博史  
石田博子, 小泉 潔, 油野民雄, 利波紀久  
久田欣一(金大 核)

脳血流測定用薬品として注目されている放射性ヨード標識 IMP は、メラノーマ検出に応用可能と予測されるため臨床患者を用いて臨床的に検討した。又、担癌動物を用いて、メラノーマを含む種々の腫瘍における腫瘍集積性を基礎的に検討した。

臨床患者としては、メラノーマ患者 8 名を用いて、放射性 IMP を静注後撮像した。動物実験モデルとして、B-16 melanoma, Lewis 肺癌, Hepatoma AH 109A, Ehrlich 腹水癌、吉田肉腫及び薬剤誘発腫瘍を用いた。放射性 IMP 静注後イメージング及び体内分布の測定を行なつた。B-16 melanoma 及び Lewis 肺癌には、非標識 IMP 投与による放射性 IMP の阻害実験を試みた。同時に、ミクロオートラジオグラフィーも試みた。

メラノーマ患者 8 例中 4 例は陽性像を呈した。B-16 melanoma 及び Lewis 肺癌は、良好なる腫瘍集積性を示し、高い腫瘍対血液比が得られた。又、阻害実験では非標識 IMP 大量投与によつても、有意の阻害は認めなかつた。IMP は、メラノーマ検出に有効な事が示唆された。